



…『キラキラ』の由来…
NPO・ボランティアなどの活動が活発になり、多くの市民の顔がキラキラ輝くようにという願いを込めました。

なくそう迷惑行為！モラル・マナーアップ北九州

NO:116 平成23年12月15日

…つばやきサロン…

「動物にも優しい環境都市へ！」

子どものころからあらゆる動物と過ごし、一人っ子の私にとって姉弟でした。私の子供のころの夢は、「ムツゴロウさんになる」事。大人になり、レディムツと友人から言われるようになった私は、犬猫の里親探しボランティアを始めました。

動物好きが高じて始めたことでしたが、多数の犬猫が日々処分されている現実。それが私と同じ人間の無責任さが原因であるということを知り、「なぜ、こんな活動を始めてしまったのだろう」と後悔しました。それでも目の前にいる命を見捨てることは出来ず、惰性で続けながら結婚し、子どもが産まれました。

私と同じ一人っ子。もちろん動物大好き！

犬や猫が我が家にやって来ると、4歳の娘はお世話をしたり、本を読んであげたりとお姉さん気取りでかなり微笑ましい姿なのですが、それも里親さんが決まるまでの短い期間。別れの度に、大粒の涙を流す子どもの姿を見て、「この子が大きくなったときに、同じ活動をさせたくない！」と強く思い、捨てられた犬猫を救うだけでなく、この活動をしなくていい世の中にする為に、根本を断つ活動をして行こうと決心しました。

動物は優しさや思いやりを育む力を持っていると思いますが、残念ながら、殺人や傷害事件を起こす人のほとんどは、動物への虐待経験があると聞きます。

現在の子ども達は、沢山のストレスを抱えて大変な時代。だからこそ積極的に子ども達と向き合い、お節介おばちゃんになっていきたいと思っています。

<動物に優しい人は、人間にも優しい人>

<動物に優しい街は、人間にも優しい街>

私なんかにはたいしたことは出来ないけれど、子ども達の為に、そんな世の中にしていけたらと思っています。



北九州アニマルネットワーク

代表 松本さよ子

第6回北九州市市民サミット2011 ～みんなで考えよう！防災の助け合い～

「日ごろのコミュニティが防災のコミュニティに・・・大切な日ごろからのお付き合い」
岩手県釜石市からインターネットでパネルディスカッションに参加していただき、北九州市のボランティア団体、NPO法人と一緒に画面を通して震災時の市民活動の在り方やこれからの課題などについて話し合っていました。

田村氏：「東日本大震災から8ヶ月が経とうとしています。これまで被災地の支援について上手く行ったこと、そしてこれからの課題を教えてください。」

菊池氏：「社協としては、振り返ることができないくらい余裕のない日々が続いていますが、当時釜石市では、県の防災訓練を行う予定で、市の担当者・青年会議所と準備を進めていました。マニュアルはありませんでしたがそれなりにうまく対応できたと思います。課題としては、時間が経つほど生活環境などの格差が広がっていることです。」

地域の中でのお互いの見守り、助け合いが、ますます必要になっています。」

山崎氏：「4月に『絆プロジェクト北九州』を立ち上げ、心のケア「人を支えるのは人である。決して見捨てない。」というメッセージを発信しながら伴走型支援を行っています。これからも必要があれば続けていくつもりですが、民生委員や社協などへ移行しながら支援を越えた信頼関係を築きたいと思います。」



左)山崎克明
北九州市社会福祉
ボランティア大学校 校長
右)司会: 田村太郎氏
東日本大震災復興対策本部
ボランティア班 企画官



左)釜石市: 鹿野順一氏
NPO 法人@リアスNPOサポート
センター代表
右)釜石市: 菊池亮氏
釜石市社会福祉協議会

田村氏：「もし北九州市に災害が起こったらどう対処しますか？」

田代氏：「日頃から防災の講座を開いていますが、改めていかに自分が何も知らなかったかを痛感しています。『関心がない・知識がない・意識がない』凄く不安に感じています。」

田村氏：「もし震災以前に戻れるならどのようなことをしておけばよかったと思いますか？」

菊池氏：「震災を甘く見ていました。直前に戻れるなら、『みんなを連れて逃げたい。』それだけです。釜石市全体でつながりを持つことは難しいですが、少人数でも強固なつながりが大事です。孤立しないためにも地域のコミュニティは大切です。障害のある人も日頃から、地域の人との付き合いがある人は助かっています。」

田村氏：「現在町内会に加入する世帯が少なくなってきました。地域では、何ができるでしょうか？」

鹿野氏：「仮設住宅では、自治会を作ることが遅れています。元の自治体そのまま仮設住宅に入居できれば良いが今回の災害は規模が大きく、それは無理でした。同じ課題を『感じ、共有し、話し合う』場をつくる自治会が不可欠です。」

田村氏：「災害に強いコミュニティとはどういうコミュニティだと思いますか？」

岡本氏：「日頃の防災訓練に加え、自治会のイベントに防災コーナーを設けるなど、柔軟な訓練のやり方が必要です。自治会の加入も勧めるだけでなく、弱者の立場になり考えながら勧めていきたいです。障がい者や高齢者も、一人ぼっちにならないよう相互扶助の気持ちが大切になってきます。」

山崎氏：「日頃の訓練から得た信頼関係がとても大事です。日常からご近所との『付き合い』、『居場所作り』、そして家庭内でも災害について話し合っておくことで、自らの命、周りの人の命を救うことになるはずです。」

田村氏：「多様な被災者には多様な担い手・活動が必要です。多様な市民活動、分野を越えた活動が多様なニーズに応えていくことになるのではないのでしょうか。地域のコミュニティがいつも顔の見える関係の中でお互い助け合っていくことが大事です。」



左)岡本広治氏
企救丘校区まちづくり協議会副会長
右)田代久美枝氏
おとなりさんネットワーク
「えん」代表

イベント・ボランティア情報

◆◆介護セミナー「看取りケアの作法」

～延命治療によらない自然な死は、
厳かでユーモアさえもあふれている～

- 日時：1月29日（日）13：00～16：00
- 会場：ウエルとばた 2階多目的ホール
（※戸畑区汐井町1-6）
- 定員：180名（先着順）
- 講師：第2宅老所よりあい所長 村瀬孝生氏
- 参加費：1,500円
- 締切：1月22日（日）
- 主催・申込：北九州の共生ケアを考える会（山下）
FAX: 093-541-4862
E-mail: h-yamashita@jcom.home.ne.jp



◆◆NPOのための広報セミナー

市民活動団体、特にNPO法人にとって不可欠な、団体
や活動内容を効率的に発信していく手法を学びます。

- 日時：1月21日（土）13：00～17：00
- 会場：北九州市男女共同参画センター”ムーブ”
5階 小セミナールーム
（小倉北区大手町11-6）
- 定員：30名（先着順）
- 講師：日本財団CANPAN事務局
山田 泰久氏
- 参加費：無料
- 主催・問合せ先：北九州市市民活動サポートセンター
TEL 093-562-5309
FAX 093-562-5310



助成金・賞情報

助成金名	ジャンル	団体名	締切
2012年 日米草の根交流コーディネーター 派遣プログラム（JOI）	国際交流	国際交流基金日米センター ロシア協会	1/6
第20回「住まいとコミュニティづくり活動助成」	まちづくり	（財）ハウジングアンド コミュニティ財団	1/13
平成24年度 第39回「環境賞」	環境	公益財団法人 日立環境財団 株式会社 日刊工業新聞社	1/20
平成24年度（第11回）環境NPO助成		公益財団法人 日立環境財団	1/20
2012年度パタゴニア環境助成金プログラム		パタゴニア日本支社	1/31
平成23年度 倶進会 一般助成	福祉	財団法人 倶進会	1/16
高齢者への暴力防止プロジェクト助成		朝日新聞厚生文化事業団	1/17
2012年度 アステラス製薬(株) 患者会支援活動資金助成	福祉・医療	アステラス製薬株式会社	1/31

※詳細は当センターのホームページに掲載しております。

また、当センターの助成金コーナー（ラック）には紙ベースでの情報を設置しております。

知って納得、NPO・ボランティアのあれこれ

Q. NPO 法人の場合、税金面で優遇されると聞いたのですが…本当ですか？

A. 株式会社などの場合は、全ての事業に対して法人税が課せられますが、
NPO 法人の場合は、法人税法上の収益事業を実施するかどうかで納める税金が変わります。
法人税法上の収益事業をしない法人については、法人税が課税されません。
また、全ての法人が対象となる道府県民税、市町村民税の均等割も減免規定のある県や市町村に
事務所を置いている場合は、申告すると減免が受けられます。



NPO法人の申請・認証状況

全国のNPO法人の申請・認証状況

平成10年12月1日～平成23年10月31日現在

	申請受理数 (含む申請中)	認証数 (現在数)
都道府県	42,142	40,503
【福岡県】	1,542	1,480
内閣府	3,552	3,326
全国計	45,694	43,829

北九州市のNPO法人の申請・認証状況

平成10年12月1日～平成23年11月30日現在

	申請受理数 (含む申請中)	認証数 (現在数)
【北九州】	282	275

2011年11月に認証された特定非営利活動法人

NPO法人 九州めだか村 (1日)
 NPO法人ラベンダー (1日)
 特定非営利活動法人歯科支援センター (8日)
 特定非営利活動法人あさなぎ (22日)
 NPO法人川塾北九州 (25日)
 NPO法人ひびしん地域支援センター (25日)

スタッフ研修 <おじゃましてきました！>

サポートセンターの休館日を利用して、日頃当センターを利用いただいている小倉南区の4団体にサボセンスタッフ4人でおじゃましてきました。

最初に「小倉南区親子ふれあいルーム『さざん』」を訪ね、スタッフの方から目的、委託業務の内容、利用の注意点など説明していただきました。ルーム全体が手作り感満載で、暖かく、落ち着いて遊べる雰囲気がありました。また、お母さん達の学びの場やちょっとリフレッシュできる講座なども企画されていて、昔、子育てをした世代にはうらやましい限りでした。

次に伺ったのは、「北九州市おもちゃライブラリー」。ここは、おもちゃの貸し出しをしています。厳選された約4千点のおもちゃや絵本が、子どもの発達や療育の目標に応じて、大きく13種類に分類されて収納されています。貸出や返却、アドバイスなどは開所以来32年間、ボランティアの手で行われていました。北九州市内には4つの分館があります。もう一度ゆっくり訪ねてみたいところです。

午後から伺ったのは、小倉南区社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターです。シルバーひまわり送迎サービスやボランティアコーディネートが進捗管理が一目でわかるようにホワイトボード上に工夫されていて、大変参考になりました。

最後に邪魔したのは、北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）です。地域社会における実践活動を通じて、次世代を担う人材の育成をすること、また大学の地域貢献活動の一翼を担うことを目的に昨年4月に設置されたセンターです。教員や学生スタッフが運営に当たり、活動には現在820人が登録し、20以上のプロジェクトが進行しています。机上の学びとは別に地域の中で活動し、経験を重ねていくことは地域にとっても大きな力となり頼もしい限りです。

かけ足での見学・研修でしたが、足を運んでみたいとわからないことばかりで、大変有意義な時間でした。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



北九州市市民活動サポートセンター

北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”1階

TEL 093-562-5309 FAX 093-562-5310

URL <http://www2.kid.ne.jp/v-net/> E-mail: support3@axel.ocn.ne.jp

市民活動サポートセンターでは、NPO・ボランティア活動に関する相談や情報の提供を行っています。また、団体間のネットワークづくりの促進のため、定期的な交流会を開催しています。

◆サポートセンターの日…毎月テーマを変えて、交流会をしています。

◆専門相談員が相談に対応…月～土曜日 17:00～21:00
日曜日・祝日 13:00～17:00

◆ミーティングコーナー…パーティーで仕切った無料の会議室。

◆掲示板スペース…団体や活動に関するチラシ等を掲示しています。

◆利用時間 月曜日～土曜日《10:00～21:00》

日曜日・祝日 《10:00～17:00》

【休館日】 12月22日(木)

【年末年始】 12月29日(木)～1月3日(火)

編集後記

流行語大賞が発表されました。毎年その10の言葉からこの1年がどんな年だったかを振り返っています。

今年は「3.11」「帰宅難民」など半分以上が震災に関係したもので、現在もたくさんの方が大変な思いをされています。

昨日まであった日常を瞬時に失う哀しみ、苦しみは想像を絶します。

今ある幸せに感謝し、少しは他人のために祈れる人間になりたいと思います。

来る年は良い年でありますように。

by yonmin105